

東京、2025 年 11 月 25 日

港湾空港技術研究所を訪問

港湾施設・海洋構造物の整備技術分野で有数の技術力を有する同研究所との協業

11 月 17 日（金）、弊理事長以下で横須賀市にある港湾空港技術研究所を訪問、実験施設を見学させて頂いた後に意見交換会を開催しました。浮体式洋上風力の共通基盤となる技術課題解決と国際展開に取り組んでいる弊組合にとって心強い協業相手であり、かねてから理事長以下での訪問機会をうかがっていました。

同研究所は、日本における港湾施設・海洋構造物の整備に関する技術研究における中核機関です。長さ 184m の大規模波動地盤総合水路（津波・波浪再現）や三次元水中振動台（地震再現）といった世界トップレベルの実験施設を有し、港湾・空港・沿岸域における防災・減災、環境保全、脱炭素化、耐震設計などの分野で総合的な研究に取り組んでおり、国際的に高い評価を受けています。



施設見学（大規模波動地盤総合水路）

訪問を終えた弊組合の寺崎理事長のコメントは以下の通りです：

このたび港湾空港技術研究所の河合所長様はじめ所員の皆様のご厚意により、同研究所の施設見学と研究員の皆様との意見交換の機会に恵まれましたことに深く感謝しています。施設見学では造波装置を有する実験水槽や 3.5m の高さの波を発生できる「大規模波動地盤総合水路」などをご案内いただき、津波や高波の再現実験が可能で、災害時の構造物の挙動等を可視化できるところが印象的でした。とりわけ、「遠心模型実験装置」は、地盤や構造物の挙動を実物に近い条件で再現・解析するための世界有数の施設であり、地盤変形や構造物の破壊挙動を高精度に予測できるため、インフラの耐震設計はもとより、洋上風力の設計基準の妥当性検証や新技術の導入判断に科学的根拠を提供するものとして大いに関心を持ったところです。

今回の見学では、防災をはじめ素材や環境技術の開発に至るまで総合的かつ先端の研究が行われていることを目の当たりにし、こうした研究の成果が科学的根拠に基づく政策形成や制度・基準に生かされているということが良く理解できましたし、何より港湾や空港などの社会インフラの信頼性を高めていくことの重要性とその地道な努力を実感できる貴重な機会となりました。

私ども FLOWRA における浮体式洋上風力基盤技術の開発において、本研究所との連携は極めて意義あるものであり今後とも関係性を深化させて参りたいと考えていますし、その成果を大いに期待しています。

+++++

弊組合は今後も港湾空港技術研究所に代表される産学官・国内外パートナーとの協調を一層強化、カーボンニュートラル社会の一日も早い実現と国内産業競争力の強化に貢献します。



連絡先

国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所 港湾空港技術研究所

〒239-0826 神奈川県横須賀市長瀬 3-1-1

Web: <https://www.pari.go.jp/>

E-Mail: pari-search@p.mpat.go.jp

TEL: 080-2175-3441（洋上風力建設システム技術研究開発推進室）

浮体式洋上風力技術研究組合（FLOWRA）

〒105-0004 東京都港区新橋 1-1-13 アーバンネット内幸町ビル 3F CROSSCOOP 内

E-Mail: info@flowra.or.jp

Web: <https://flowra.or.jp/>

LinkedIn: <https://www.linkedin.com/company/flowrajapan/>